

新ラジオ素材(MO)運用暫定ルールと対応ソフト説明会

社団法人放送連盟(NAB) 社日本ポストプロダクション協会(JPPA) 社日本広告業協会(JAAA)共催

日時・会場 文芸春秋西館 説明会3F デモンストレーション地下ホール
講師 ■オタリテック・JPPA 丸谷 正利氏 ■電通・JAAA 峯川 卓氏
■博報堂DYメディアパートナーズ・JAAA 白澤 信男氏
司会進行 日本広告業協会 木村 敏文氏

※丸谷氏の講演記事は都合により次号に掲載いたします。

接 拶

日本広告業協会・博報堂DYメディアパートナーズ
丸山 直樹氏

2年余の協議を経て来春目標に6mmテープに併用してMOディスクの使用を開始し、将来の一本化に向けたと考えています。即ちMO導入の第一歩としてこれからも検討を継続し、より良い成果を挙げたいと思っています。

日本民間放送連盟・エフエム東京

石井 博之氏

民放のCM部会長として6mmテープの生産停止の問題に対処すべく関係機関の共同作業で一応の結論が出ました。更により良い運営のため、皆様の協力をお願いします。地下のホールにて実際に触れてみて下さい。

日本ポストプロダクション協会・イマジカ

久松 隆氏

JPPAの技術委員会の中のオーディオ部会にBWF-Jワーキンググループを置き、主に技術面をサポートすることで民放連様、広告業協会様のお手伝いをさせていただきました。本日の説明をよくお聞き頂き、ご理解を深めていただければと思います。

12月より実証実験を開始し、来年3月完成を目処に進めてまいります。その間に皆様方のご意見も伺い、一部修正が出るようなことがあるかも知れません。

また、本日当ビルの地下に於きまして、実機も用意してデモを行っておりますので見て、触って、よりご理解を深めて頂ければと思います。宜しくお願い致します。

目 次

○新ラジオ素材(MO)運用暫定ルール対応ソフト説明会	1
○第8回オーディオスクール	7
○データコンプレッション 400端末を誇る中国電視台のニュースシステム	19
○あの時代のCMに逢いにいこう! アド・ミュージアム東京	23
○賛助会員インタビュー⑩ 音響技術専門学校	25
○JPPA忘年会	29
○ニュースフラッシュ	32
○各委員会・JPPAの動き	34

「ラジオCMコンバーター」について

峯川 卓 氏

ラジオのCM素材として長年親しまれてきた6mmテープが、全ての国内生産を終了してから既に1年半以上経過しました。そして、いよいよ来春からは「3.5インチMOディスク+BWF-Jフォーマット」によるCM素材搬入が開始される予定です。

これにより、今後ラジオCMのフルデジタル化は大いに進展すると予想されますが、それは単に音声をデータ化し、テープがディスクに代わるというだけのものではありません。既に他の広告媒体でも見られるように、デジタル化することに伴いCM素材の受け渡しなどで、従来では気づかなかったような責任や権限の問題、送稿ルールに関わる新たな問題等がいくつも出てくるものと思われます。

そうした事態に対処すべく、㈱日本広告業協会では一昨年来、㈱日本ポストプロダクション協会様、㈱日本民間放送連盟様と協議を重ねてきました。より確実で効率的なCM送稿/運行業務を実現するためにCMの音声データだけでなく、それ以外の周辺部分、すなわち従来からの作業で言えばクレジットや箱書き、あるいはナレーション原稿として添付されるCMの付帯情報についても、統一した規格で管理していくことを検討してきました。それがJPPAの策定したBWF-Jフォーマットに、CM運行用のメタデータを付加した。

「BWF-JラジオCM用拡張仕様」といわれるものです。このラジオCM拡張仕様の付帯情報、すなわちメタデータをPC上で読み書きできるソフトとして、主に音声データそのものを扱う部署ではなく、CM素材の受け渡しを業務とする部署の方々に使っていただく

ために用意されたのが「ラジオCMコンバーター」といわれるソフトとなります。

実際にラジオCMがデジタル化されて大きく変わるのは、テープかディスクかといった格納メディアの違いではなく、「1CM=1ファイル」で管理されるという点にあります。従来は6mmテープに複数のCMが収録されていても、添付された情報と音声クレジットによりリール単位で管理されてきました。ところが、MOディスクに複数のCMが収録される場合は、その中にCM本数分のファイルのアイコンが並ぶこととなります。そして、各ファイルにはそれぞれファイル名が付きますが、そのファイル名からCMの具体的内容を識別することは困難です。また、個々のファイルはPCのソート機能の設定次第で並び順も変わってしまいます。

例えて言うならば、MOディスクとう大きな箱の中に1CMずつが収録されたテープを巻いたリールが複数入っているような状態だといえます。一旦箱を揺さぶってしまえば、どのテープが何のCMなのか皆目わからず、リールを1本ずつ試聴してみて初めて中身が確認できるという状態と同じだといえます。時には肝心のファイル名をうっかり触ってしまい、書き換え、削除等がなされることも当然予想されます。また、将来デジタルオンライン送稿へと発展した時には、この箱が更に大きな箱となり、より多くのCM素材が投げ込まれることになるとすれば、MO送稿の比ではない結果を招来するかもしれません。

そうした問題点を解決すべく、前述した3者が一致協力して策定したのが「BWF-JラジオCM拡張仕様」です。もともとBWF-Jフォーマットは、通常の音声データに放送業務に必要な様々なメタデータをチャンク情報として加えて一つのファイルとする構造になっており、ナレーション原稿等のファイルを同梱することも可能です。ラジオCM拡張仕様は、その特性を更に活かし、CM制作/送稿/運行に関わるメタデータをCMチャンク情報として書き込めるようにしたものです。従来6mmテープの箱書き・帯などで添付してきた広告主名、CMタイトル、秒数、広告会社名、制作会社名、録音スタジオ名、素材情報、制作情報等が1CM毎に書き込めるようになっています。

「ラジオCMコンバーター」とは、このCMチャンク情報をPC上で読み書きすることができるソフトです。「ポストプロダクション仕様」、「広告会社仕様」、「放送局仕様」の3タイプがあり、CM素材取扱いのワークフローの中で当該部署（会社）の位置付け、業務内容、それに伴う責任の所在などを考慮して分けられています。

まず「ポストプロダクション仕様」は、CM制作会社、ポストプロ、広告会社のクリエイティブ/営業部門の使用を想定しています。CM関連情報の書き込みが主体で、ナレーション原稿ファイルの添付、各種情報の書き込みや改訂もできるので、権限や責任もそれなりに重い部署用です。

次に「広告会社仕様」は、広告会社の媒体担当・送稿担当部署の使用を想定しています。ほとんどの情報を読んで確認することに特化し、素材指定用の略号の入力、素材指定表等の添付以外は変更ができないようになっています。

そして「放送局仕様」は、ラジオ局に搬入されたCM素材の詳細が確認できる仕組みに

なっています。添付ファイルを開いたり、保存したりする機能も持っています。当然素材搬入時に書き込んである情報は閲覧のみで変更はできません。入力できるのは放送局内で運用するためのコードや注意書きなどに限定されます。また、それぞれにCMの検尺機能やデータ書き出し機能を持たせるなど、作業の効率化を図れるような機能も持たせています。

「CMコンバーター」の機能は、どの仕様においてもCM1本づつに対応しています。ところが、関係者が如何なるCM素材を手にしても、まずはMO単位での内容確認の必要があります。その機能は「コンバーター」は持っていませんので、「コンバーター」の各仕様に対して「MOディスク・ビューア」というMOの中のCMをリスト形式で一覧できるソフトを用意しています。これを使用することによって、従来の6mmテープでの取扱いに近い感覚でMOディスクが扱えるようにしてあります。また、ここでリスト化した情報はデータとして書き出しができるので、MOの箱書きやラベルの印刷等に利用することも可能で、煩雑な作業を簡略化し、書き写しの間違い等の単純なミスを排除できるものと考えています。

ここに紹介した「ラジオCMコンバーター」と「MOディスク・ビューア」は、現在CM素材を取扱うために考えられる必要な機能ができる限り取り入れたつもりですが、実際の現場で運用してみて初めて見えてくる要素も多々あるかと思います。是非現場でお使いいただき、様々なご意見やご希望をお聞かせいただくことにより、ラジオCMデジタル化推進のお役に立てるようなソフトにしていければと思います。

「3.5インチMOによるラジオCM素材運用の ための暫定ルール」について

白澤 信男 氏

2004年春、態勢の整った全国のラジオ局各社では、ラジオCM素材として現行の6mmテープに加えて3.5インチMOの受入れを開始いたします。

この新たな運用に向け、㈱日本広告業協会ラジオ小委員会（以下、業協）と㈱日本民間放送連盟（以下、民放連）では共同で、BWF-Jに対応したCM変換・管理ソフト「ラジオCMコンバーターソフト」の開発に着手し、昨年11月にその開発を終了いたしました。同時に、「3.5インチMOによるラジオCM素材運用のための【暫定】ルール」を策定し、去る12月9日に3者（民放連、㈱日本ポストプロダクション協会（以下、ポストプロ協会）、業協）共催の説明会で、加盟各社と多数の関係者の皆さんにお集まりいただき、開発ソフトと【暫定】ルールを発表いたしました。運用ルールを【暫定】としていますのは、2004年1月以降に実施予定の運用実態の結果を可能な限り反映させるためです。

当運用ルールの策定に際しましては、ポストプロ協会、ならびに関係者のご助言をいただきながら、移行負担の軽減を意図し、現在の運用形態にできる限り配慮した内容にしました。CMチャック情報を取りこむ機能を開発ソフトが備えているものの、来春のスタート時には、とりあえず紙面に対応としましたのも、6mmテープからMOに速やかに移行できることの期待が込められております。

しかしながら、ラジオCM素材のMO移行、即ちデジタル化は、あくまでも手段であって目的ではありません。当開発ソフトの活用によって、CMチャックの情報をMO内に取り込

み、その後に、デジタルオンライン送稿が実現することによって、制作会社・広告会社・放送局の3者間の業務の効率化（安全・迅速・確実）が達成できます。その最終ゴールの到達によって、デジタル化の恩恵を初めて享受できるわけです。

来春より当面は、6mmテープとMOの併用になりますが、この併用形態の長期化は前述の3者におきましても現行の業務効率の低下を招きかねないことでもあり、絶対回避せねばならないというのが関係者共通の認識です。MO一本化のために、ラジオCMに係わる全ての関係者のご努力をお願いする次第です。

繰り返しになりますが、今回の開発ソフトの活用と新・運用ルールによるMO受入れ態勢のスタートこそが、デジタルオンライン送稿実現に向けての第一歩である事を強くアピールしたいと思います。

注）ソフトのお問合せ先／購入申込先は下記をお願いいたします。

㈱日本広告業協会ラジオ小委員会
担当：木村 電話 03-5568-0876
FAX 03-5568-0889

まとめ

人数も予定を遥かに超え全体で約450人となる程関心が高く盛況でした。

取材 中山 亮一

3.5 インチMOによるラジオCM素材運用のための

暫定ルール

2003年11月

日本民間放送連盟・日本広告業協会 ラジオCM共同作業班

このルールは、民放連と日本広告業協会のラジオCM共同作業班が、2004年春からの3.5インチMOによるラジオCM素材の運用開始に先立ち、2003年12月からの実用化試験運用のために、共通の認識に基づき最低限守るべき項目を定めたものである。

ただし、実用化試験運用の結果によっては追加・修正等も想定されるため「暫定ルール」とした。2004年春からの本格運用時には、この暫定ルールを踏襲した「CM素材取り扱い要領」に発展させる予定である。

《素材の運用方法》

- ・メディア：3.5" MO
- ・容量：230MB/640MB/1.3GB (640MBを推奨)
- ・内容：1本のディスクには、同一広告主であれば複数のCM素材の収録が可能
- ・添付物：①素材明細表（ファイル名と素材名が対応付けられたもの）＝紙面による
 - ②CM原稿＝紙面による
 - ③連絡表＝紙面による
- ・梱包の仕様：前記の添付物は、プラスチックケースにゴムバンドで巻きつける。
衝撃でMO本体を破損しないように留意する。
 - ①プラスチックケースの背に表記する必須項目
 - i) 広告主名（残りのスペースに放送局側使用欄を確保すること）
 - ②プラスチックケースの裏面に表記する必須項目
 - i) 「RCM」のロゴ
 - ii) 広告主名、CMタイトル、制作広告会社名、録音年月日、録音機器
 - iii) MO本体と同様のシリアルコード
 - ③MO本体の付属シールに表記する必須項目
 - i) 「RCM」のロゴ
 - ii) 広告主名、CMタイトル
 - iii) プラスチックケース裏面と同様のシリアルコード

《ファイルについて》

- ・音声ファイル形式：
 - BWF-Jとする（BCS STANDBY、CMチャンクの情報を付加することを推奨）
 - PCM非圧縮、48kHz、16bit、2ch (Stereo)
- ・ファイル名：32文字以下の半角英数字の組み合わせとする（16桁程度）
日本語のファイル名は使用しない
命名規則は特に設けないが、拡張子は、wavとする

《ファイル内の音声情報》

- ・基準音圧：-20dbFS
- ・10k信号、1k信号、およびクレジットは必ず付加すること

※「BWF-J」フォーマットの詳細は、社団法人日本ポストプロダクション協会（JPPA）が規定する「BWF-Jレベル1運用規定」（<http://www.jpapanet.or.jp/bwf-j/bwf-j.htm>）を参照。

※その他のルールについては、「ラジオCMの取り扱い」（「ラジオCMガイド92」所収）の6mmテープと記載されている部分を3.5インチMOに読み替える。



盛況の会場



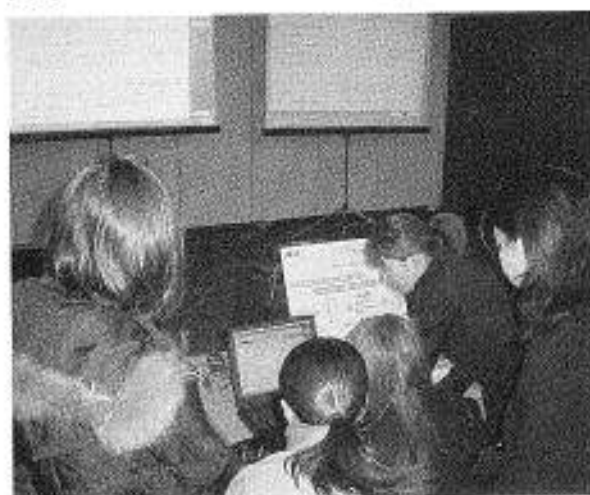
丸谷氏



白澤氏



峯川氏



賑わう地下のデモンストレーションルーム

